

筑スポ

選手権アベックV



たが、そこで勝ちきれたのは大きな自信になり、優勝の流れを作れた」と話してくれた。

また馬場選手に、MVPを獲得した気持ちについて伺うと、「満足したプレーが大会を通してできたとは言えない。ただ、年より成長した姿を、お客さんに見せられたとは思う」と振り返ってくれた。

最後に今後の目標について伺った。小松選手は、「卒業後は教員となる。今度は指導者として日本になリたい」と、馬場選手は、「今まで以上のプレーヤーがかかるシーズン。今度こそ3冠を成し遂げた。個人としては日本代表メンバーにだけ食い込めるかが勝負」と語ってくれた。

チームとしても個人としても。男子バスケットボールから目が離せない。

(西村海星)

最優秀選手賞(MVP)、アシスト王、MIPを受賞したチームを牽引した女子主将藤園選手にお話を伺った。優勝した瞬間の心境を伺うと「最初は嬉しいというだけで、実感が湧いたのは一週間くらい経ってから。瞬間は、あつて感じだった」と笑顔で率直に話してくれた。3つの賞を受賞した感想について「コンディショが悪く練習もできていなかったので、(MVP)

筑波
スポーツ

題字:中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)



魅力と才能に溢れる藤岡選手とインカレ王者として更に躍動していくであろう女子バスケットボール部の今後に期待したい。

蹴球 1 部昇格!!

昨年の雪辱を果たす



名門の復活を告げる笛が、ピッチに鳴り響いた。
昨年 11 月 14 日に行われた関東大学サッカー 2 部リーグ最終節、筑波大蹴球部は悲願の 1 部昇格を決めた。
伝統が崩れた。昨年のあの日、あの場にいた選手達はひと時たりとも忘れることはなかったろう。一昨年の 11 月 15 日。関東リーグ発足から 90 年間、全参加校で唯ずつと守り続けていた 1 部の座は、最後の最後で奪われた。残り 1 つの椅子を懸けた中央大との最終節、引き分け以上で残留が決まる筑波大が 1 対 1 で迎えた後半ロスタイム。残留へのカウントダウンが 4 分と表示された直後に痛恨の失点を喫し、創部以来初となる屈辱の 2 部降格が決まった。

初参戦の 2 部リーグ、昇格争いという新たな戦いに臨むチームは、挑戦者として「二」から這い上がるという決意を込め、スローガンとして「二」を掲げた。チーム全員が 1 年での 1 部復帰へ団結したチームは順調に勝ち点を重ね、あの悪夢から 1 年、ついに運命の最終節を迎えた。
関東 2 部リーグでは、年間順位が 1 位と 2 位が 1 部昇格

を手にする。最終節開始前の時点で、1 位の日本体育大学はすでに順位を確定させ、残り 1 つの昇格の椅子を 2 位筑波、3 位関東学院、4 位東洋の 3 校で争うこととなった。そして、最終節の対戦カードは、筑波対東洋、日体対関東学院。奇しくもこの上位 4 校が激突することとなった。
最終節のこの 2 試合は、別会場でも同時にキックオフされた。筑波大の昇格のための条件は、勝利するか、負けるか引き分けの場合は関東学院大が勝利を逃し、かつ 2 点差以上の差をつけられないことであった。試合は昇格の可能性を残す 2 校の対戦だけあり、両校とも気迫のプレーの応酬となった。そして前半 41 分、ついに試合が動く。ロングボールを繋いで DF の裏へ抜け出した東洋大 FW と GK が接触、PK の判定を受けてしまい、これを冷静に左下隅に決められ先制を許した。しかし、その後も慌てず粘り強く戦う筑波大は、ついに後半 31 分、中野誠也選手(体育 2 年、静岡・ジュビロ磐田ユース)の左足のシュートで同点に追いついた。そしてそのまま時刻と時間が過



ぎ後半ロスタイム、他会場では日体大が大差で勝っていることを知りながらも、最後まで油断することはない。試合終了を告げる笛は、歓喜の笛となった。
今年、蹴球部は創部 120 周年の節目を迎え、新スローガン「不撓」を掲げた。苦難を乗り越え復活を遂げた名門は再び咲いた場所でも慢心することなく、戦つてくれるだろう。
(高橋優太)

男子ラクロス

10 年ぶりの 2 部昇格を決めるシットを放ったのは、大学生生活最後のリーグ戦を戦う 4 年生、柴田選手(生物 4 年、大阪・大阪星光学院高)だった。筑波大男子ラクロス部がサードビクトリー(1 点先取の延長戦)の末に東京学芸大を破り、関東リーグ 2 部昇格を果たした。今回はその男子ラクロス部の現主将である吉井裕一選手(知識 3 年、愛知・安城東高)にお話を伺った。
筑波大男子ラクロス部が所属する関東リーグは、リーグ戦が年に一度しか開催されない。そのため、昇格するチャンスも年に一度きりであり、他の年 2 回リーグ戦があるスポーツより昇格を勝ち取るのが非常に難しいといえる。しかし、吉井主将は「リーグが年に一度というところでむしろリーグへの準備期間が度で済み、それ以外の時期を個人の技術向上に充てられる」と前向きだ。そんな中で今年、1 年かけて「守りながら攻めるつもりで、奪ったボールをゴールまでつなぐ」という攻撃的ディフェンスのスタイルを貫いてきた。

そして吉井主将は、リーグ戦を戦う中で大きなターニングポイントとなった試合にリーグ第 1 戦の慶應義塾高戦(慶應義塾高は全国の高校で唯一大学生リーグに参加している)を挙げた。この試合で、慶應義塾高は前評判でも強敵と言われており、「試合終盤までビハインドを背負っていた、なかなかチームも乗り切れず、ゲームを楽しむこともできなかった。しかし、その中でも粘り強く、自分たちのスタイルを貫き切って、勝ち上がったことがチームにとって大きかったと思う。」とのことだ。そしてこの経験が、同じく拮抗した末に延長までもつれた入れ替え戦でも活かされたことで「入れ替え戦では、接戦の中でも試合を楽しむことができた。」と述

べる。自分たちのスタイルを貫き続け、リーグ戦の中で成長したチームの集大成が現れた最後の入れ替え戦だったというところだろう。
最後に来季、2 部という新しいステージで戦う中での目標を尋ねると、「1 部昇格」を迷わず掲げてくださった。それを考えると今より一人一人がレベルアップしなければいけない。」とのことだ。
今年、2 部昇格を勝ち取った勢いのままに、来季 2 部リーグで筑波大男子ラクロス部が躍動し、目標である「1 部昇格」を勝ち取る姿を期待したい。
(岡崎純豊)



悲願 10 年ぶりの二部昇格

結果一覧

【男子バスケットボール】 (第 67 回全日本大学バスケットボール選手権大会) 1 回戦 ○筑波大 111-54 ●徳山大 2 回戦 ○筑波大 88-53 ●法政大 3 回戦 ○筑波大 92-59 ●専修大 準決勝戦 ○筑波大 76-66 ●拓殖大 決勝戦 ○筑波大 64-59 ●東海大 最終結果、優勝 (2 年連続 3 回目)	【女子バスケットボール】 (第 67 回全日本大学バスケットボール選手権大会) 1 回戦 ○筑波大 41-0 ●国士館大 準決勝 ○筑波大 21-1 ●中京大 決勝 ○筑波大 11-3 ●関西学院大 最終結果、ベスト 4	【男子サッカー】 (第 29 回関東女子サッカーリーグ戦) 1-2 部入替戦 ○筑波大 2-10 ●尚美学園大 1 部残留決定	【剣道】 (第 34 回全日本女子学生剣道優勝大会) 1 回戦 ○筑波大 3-1 ●龍谷大 2 回戦 ○筑波大 2-0 ●別府大 3 回戦 ○筑波大 4-0 ●国士館大 準々決勝 ○筑波大 2-1 ●中京大 準決勝 ○筑波大 1-3 ●関西学院大 最終結果、ベスト 4	【男子ラクロス】 (第 28 回関東学生ラクロスリーグ戦 2-3 部入替戦) ○筑波大 7-16 ●東京学芸大 最終結果、2 部昇格	【オリエンテーリング】 (第 1 回アジア・ジュニアスオリエンテーリング選手権大会) スプリントリレー 鈴木直美選手(地球 2) 第 1 位(アジアジュニアレジン)	【体操競技】 2015 ボロリーニカップ (第 22 回団体操国際トーナメント) 「ミハイル・ボロニシナ」 井上和佳奈選手(体育 2) 女子団体 3 位 シニア個人総合 3 位 シニア種目別平均台 2 位 シニア種目別ゆか 2 位	【男子バレーボール】 (第 68 回全日本バレーボール大学男子選手権) 決勝トーナメント 1 回戦 ○筑波大 2-0 ●札幌大 2 回戦 ○筑波大 2-0 ●天理大 3 回戦 ○筑波大 3-0 ●日本大 4 回戦 ○筑波大 3-0 ●大阪産業大 準決勝 ○筑波大 3-0 ●明治大 決勝戦 ○筑波大 0-3 ●中央大 最終結果、準優勝
【男子ハンドボール】 (第 58 回全日本学生ハンドボール選手権大会) 1 回戦 ○筑波大 40-22 ●桃山学院大 2 回戦 ○筑波大 31-13 ●環太平洋大 準々決勝 ○筑波大 35-23 ●朝日大 準決勝 ○筑波大 33-42 (延長戦) ●早稲田大 最終結果、ベスト 4	【女子ハンドボール】 (第 51 回全日本学生ハンドボール選手権大会) 1 回戦 ○筑波大 27-18 ●環太平洋大 2 回戦 ○筑波大 28-17 ●東海学園大 準々決勝 ○筑波大 29-20 ●関西大 準決勝 ○筑波大 18-33 ●大阪体育大 最終結果、ベスト 4	【男子サッカー】 (第 89 回関東大学サッカーリーグ戦) 最終結果、14 勝 4 敗 4 分、1 部昇格					

平成27年度

体育会賞



水泳部

第91回日本学生選手権
水泳競技大会飛込競技 女子総合優勝



柔道部

全日本学生柔道優勝大会
男子団体優勝



剣道部

第63回全日本学生
剣道優勝大会 優勝



医学アイスホッケー部

第57回東日本医科学生
総合体育大会 優勝



バドミントン部

秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第66回全日本学生
バドミントン選手権大会 女子団体優勝
第28回ユニバーシアード競技大会 混合団体第3位



ダンス部

第28回全日本高校・大学ダンス
ダンスフェスティバル(神戸)
文部科学大臣賞(1位)



永瀬貴規

2015年 アスタナ世界柔道選手権大会
男子81kg級 優勝

柔道部



竹ノ内佑也

第16回世界剣道選手権大会 個人2位
第16回世界剣道選手権大会 団体優勝



林田匡平

第63回全日本学生剣道選手権大会 優勝

剣道部

個人賞



三枝直幹 中川隆嶺
小原隼斗 長澤圭吾
4×400mリレー 優勝



岩下美紗子

砲丸投げ 優勝 やり投げ 優勝



浅田 陸

1500m 優勝 5000m 優勝
3000mSC 優勝



長澤圭吾

800m 優勝

第58回東日本医科学生
総合体育大会陸上競技部門

医学陸上競技部



木村光里 小原有賀
第37回全日本軽量級選手権大会
女子ダブルスカル1位

漕艇部



水谷有希
AFC U-19女子選手権中国2015



横山亜依 山守杏奈
第28回ユニバーシアード競技大会 3位

女子サッカー部



江上万純
アーティスティック・ムーブメント・
イン・トヤマ2015 松本千代栄賞

ダンス部



榎本遼香
第70回国民体育大会水泳競技会飛込競技
3m板飛び込み 1位



山下藍奈
第91回日本学生選手権水泳競技大会飛込競技
高飛び込み 1位



斎藤ゆり子
第91回日本学生選手権水泳競技大会
背泳ぎ200m 1位

水泳部



佐々木大地
2015年度第11回全日本学生
ラート競技選手権大会 男子個人総合1位



北島瑛二
2015年度第11回全日本学生
ラート競技選手権大会 男子直転1位



杉浦 舞
2015年度第11回全日本学生 ラート競技選手権大会
女子直転1位 女子斜転1位



松浦佑希
2014年度第20回全日本ラート競技選手権大会
女子跳躍1位 女子総合1位

体操部



山下雄大
第23回フィンスイミング短水路日本選手権
男子100mビーフィンシニア 優勝



安心院千裕
東日本医科学学生総合体育大会水泳競技会
女子50m平泳ぎ 優勝

医学水泳部



保坂雄志郎
天皇賜盃第84回日本学生陸上競技対校選手権大会
男子ハンマー投げ 優勝



榎本優子
天皇賜盃第84回日本学生陸上競技対校選手権大会
女子棒高跳び 優勝

陸上競技部

体育会委員長挨拶



皆さんこんにちは。筑波大学体育会執行委員会第40代委員長の矢崎誠です。この度は伝統ある本学体育会の委員長を務めさせていただくにあたり、とても嬉しく思っています。体育会の団体の活動をサポートするために精一杯活動していきます。

昨年、本学体育会の学生は国内での活躍はもちろん、国外での活躍も多く見られました。国内では男女バスケットボール部のインカレ優勝や、男子バレーボール部のインカレ準優勝、ラクロス部、蹴球部の上位リーグへの昇格等、国外ではアジア大会や世界選手権で活躍する選手も多く見られました。今年は8月にリオデジャネイロで夏季オリンピックが開催されます。体育会に所属する学生が1人でも多く出場し、筑波から世界へ羽ばたいていくことを私達執行委員一同お祈りしています。本学体育会はいわゆる体育会系の部会だけでなく、同好会や独自の運営で活動し東医体で活躍する医学部生によって構成され、様々な学生が所属しています。こうした多様性は本学体育会独自の特徴です。これらの団体が互いに尊重し、協力しながら活動することが体育会の発展と運営に貢献していくと考えています。私達執行委員会は学生の素晴らしい活動を援助金の支給や学内施設の使用など多くの面で支え、団体の皆様から必要とされる組織を目指して活動していきます。

先程あげたような学生の活躍は非常に素晴らしい、世間からも多くの脚光を浴びています。喜ばしい結果が広まることはとても良いことですが、同時に不祥事等が起こった際にも大きく注目されます。近年では残念ながら本学体育会構成員による不祥事が相次いでいます。一人ひとりが筑波大学体育会の構成員であることを自覚し、そのことに合った行動を取るようになってください。スポーツにもルールがあるように、社会にもルールがあります。ルールを守って人のアスリートとして、一人の人間として社会に貢献し、責任のある行動を取って一緒に「みんなの体育会」を作っていきましょう。(矢崎 誠)



加藤美幸 柏原みき
秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第66回全日本学生
バドミントン選手権大会 女子ダブルス優勝
第28回ユニバーシアード競技大会
女子ダブルス第3位

バドミントン部

第40代体育会 執行委員会委員長

オリエンテーリング

「筑波」から「世界」へ



2015年、オリエンテーリング部から、3人の日本代表が選出された。アジア世界選手権(以下ASJYC)に出場する鈴木直美選手(地球2年、三重・津高校)と山岸夏希選手(体育1年、神奈川・公文国際学園高)、そしてスキー・オリエンテーリング学生選手権以下スキーO選手権)に出場する後藤孔要選手(シス情1年、新潟・長岡高)。筑波大学から日本代表が選出されるのは実に7年ぶりの快挙。そんな快挙を果たした3人に話を聞いた。

まずは鈴木選手と山岸選手。日本代表は初めての鈴木選手は「言葉にできないほどうれしかった。」と選出の瞬間を振り返った。前主将から話を聞いて以来、ひたすら目指してきただけあって感無量だったという。JWOCでは怪我などに苦しんだものの、ASJYCでは団体スプリントリレーで優勝という実績を残し、世界で戦える実感を掴んだ1年であった。一方の山岸選手は全日本大会優勝の実績を持つ選出。山岸選手は過去に4度、日本代表を経験しているが、今回のレースはそれまでと違って「開催地が東欧からオリエンテーリング発祥の地北欧になった」という。北欧の地形はかなりの平らで、ナビゲーションスポーツの本質に触れることが出来たと笑顔で語った。2人にとって大きな経験を積むことが出来た2015年を終え、2人は「インカレプリントは日本になる(鈴木選手)」「今年は国内の



20歳以下の大会で負けるつもりはない(山岸選手)と力強く2016年の目標を掲げた。次は後藤選手。後藤選手も日本代表は初めての選出だったが、実は競技を始めたのも代表選考会のわずか1年前、部のOBに誘われたのがきっかけだったという。クロスカントリースキーも初めてだったため、当初は「前に進むことすらできなかった。」と言うが、そこから参加できる練習会や合宿には出来るだけ参加することでスキルアップをかけた。雪のない時期もローラースキーなどを活用して必死に練習したが、今シーズンは気温が高めで選考会前に雪上で練習する機会が確保できないアクシデントが発生した。しかし、そのような状況でも選考会では力を出し切り、日本代表に選出された。選出された瞬間は「とにかく嬉しい。」と後藤選手。代表選出後も資金面などで苦労が絶えなかったが、何とか大会まで漕ぎ着けた後藤選手は結果を残すこととお世話になった人にお礼を「と意気込む。2016・2017年シーズンは世界選手権の開催も予定されており、後藤選手も再びの日本代表を目指してスキルアップを目指す。

数年ぶりに大会の出場を果たし、更に日本代表を3人輩出して古豪復活の兆しを見せた2015年のオリエンテーリング部。2016年も更なる飛躍を期待したい。(島根崇志)



日本代表三人選出

第11回 リレーコラム

こんにちは。筑波編集、比較化学類1年の西村海星です。こういった文章を書く、冗漫だと言われがちなの、なるべく読みやすい文章を心掛けて書きます！

私が筑波大学に入学して、もうすぐ二年経ちます。日々驚きと発見の連続です。その中でもアスリートが身近にいる、という経験は貴重なのではないかな、と思っています。筑波の取材で、様々な方面で活躍する選手にお会いできたり、また家のお隣さんがアンダー日本代表の候補

だった。はたまた学校内を日本代表が歩いたり。体育専門学群がある筑波大学だからこその、あるあるネタなのでしょう。そして何より実感したのが、一流アスリートにも、もちろん日常があるということ。僕スポーツ観戦が趣味なので、テレビを通してみるアスリートたちは、どこか遠い存在、本当にののかない感じがして、お話を伺っていると、ああ、この人たちは宇

宙人ではないのだな、同じ人間なのだ、しみじみ感じるのです。そんな恵まれた環境にいるのなら、ガンガン活用してやるうじゃないか、と最近では企んでいます。なるべく多くのアスリートと話し、友達をつくる。これが僕の大学での野望の一つとなりました。途中経過、また機会があればリレーコラムで報告しますね(笑) (西村海星)

次は筑波編集委員の小枝香葉子さんです。

編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。今号から編集を務めることになりました、猪本あかりと申します。どうぞ暖かくお見守りいただけると幸いです。

さて、早いもので年が明けてからもう一か月が経つので、すね。昨年も多くの筑波大に所属する選手の方々が輝かしい成績を収められました。今号では、インカレ特集、体育会賞特集、そして日本国内のみならず世界の舞台へと羽ばたいていく選手の方々への取材記事が掲載されています。国内外で大きく活躍されている選手の方々に直接お話を聞きたいという貴重な経験ができ、自分は幸せだな、もっと自分も頑張らなければ、と取材させていただく度に思います。

筑波大学にはトップを目指す選手が大勢いらっしゃいます。そんな選手の方々の魅力、スポーツの魅力を一杯お届けしていきたいと思っております。今後とも、筑波スポーツ新聞を宜しくお読み致します。(猪本あかり)

編集長 猪本あかり(比文2年)

会計 岡崎純豊(比文2年)

広報 篠原美奈(比文2年)

編集スタッフ

島根崇志(国際4年)

鈴木優輔(人文3年)

藤原真梨子(社工3年)

岩佐拓哉(工シス3年)

高橋優太(工シス2年)

松本 航(社工2年)

西村海星(比文1年)

小枝香葉子(比文1年)

鈴木里香(比文1年)

発行所/筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)
発行人/若木祥太
編集/筑波スポーツ編集部
tsukusupo@hotmail.co.jp
責任者/猪本あかり(編集長)